

大本の聖地 綾部・梅松苑



戦後、現在の聖地の姿に

大本は明治25年に綾部で開教しましたが、現在の
ような神社になったのは、昭和20年以降のことです。
というのも、大正10年と昭和10年の2度にわたっ
て政府から宗教弾圧を受けたからです。特に2度目
の弾圧では、裁判が始まるまでに、非道にも苑内の
すべての建物が取り壊されてしまいました。
昭和17年に「無罪」が確定しましたが、聖地が返
却された時に残っていたのは「榎のみでした。
その後復興をとげ、現在の聖地のたたずまいが
つられていったのです。



列車で JR京都駅から綾部駅まで
特急で約1時間
綾部駅から徒歩で約15分

マイカーで
京都縦貫道丹波ICから約30分
舞鶴若狭自動車道綾部ICから約5分
(一般道で京都から約80分)

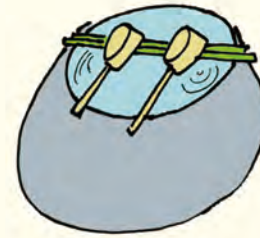
初詣や秋祭り、また人
生の節目などに神社にお
参りする人は多いでしょ
う。最近は神さまの力を
体で感じたいと、「パワー
スポット」に旅行する人
も多いようです。
大本には、神気に満ち
た2つの聖地がありま
す。そのうちの1つ、京
都府綾部市にある「梅松
苑」を紹介します。



みろく博士



ありがとうございます
長命水(金亀海横)
これを飲むと長生きする
という伝説の水です。昔
この水を生活水として利用
していた村に、長寿の人が
たくさんいたからだそう
です。この伝説にあやかり
たいと、今でも大勢の人が訪
れています。



大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



<連絡先>



■ 大本はここで始まりました ■



大本は明治 25 年に京都府綾部市にある「梅松苑」で開教しました。大本には2つの聖地がありますが、梅松苑では「まつり」が中心とされています。

約4万坪の自然豊かな苑内には、長生殿やみろく殿といった大きな神殿をはじめ、数多くの礼拝所が各所にあります。自然と共存した癒やしのスポットへ、足を運んでみませんか。



■ 金竜海・きんりゅうかい ■

この池の名前、どうして「海」なのでしょう？ 周辺の敷地を含め、池に浮かぶ島が世界の5大洲をあらわしているからなのです。四季折々の風情を楽しめる金竜海。秋には「もみじまつり」が行われ、大勢の人でにぎわいます。

江戸時代に建った茅葺き民家



■ 木の花庵 ・このはなあん ■

丹波地方に残っていた民家を、民俗資料として保存するために昭和44年に移築しました。国の重要文化財にも指定されています。

世界中の「みたま」をまつっています

■ みろく殿 ■

789畳敷の広い神殿には、3つの拝殿があります。中央には大本皇大神をまつり、その両脇には、大本信徒の祖先をはじめ有縁のみたまをまつる祖霊社と、世界中の戦争や不慮の災害などで世界した「みたま」をまつる万霊社があります。



池じゃないんです！海なんです！！



■ 長生殿・ちょうせい でん ■

主な祭典は長生殿で行われています。祭神は大宇宙の創造主である大本皇大神（おほもとすめおほみかみ）。神殿の奥にある神体山・本宮山とあわせておまつりしています。家内安全、交通安全、受験合格、企業繁栄など、さまざまなご祈願や結婚式も受け付けています。

樹齢 160 年の大榎

■ 榎・えのき ■

広場の中央にそびえたつ樹齢160年の榎。開教当時、「たくさんのえらい神さまがおられるのやで」と伝えられているご神木です。



大木のルーツはココ！！



■ 元屋敷・もとやしき ■

明治25年旧正月の夜、ここに住まいしていた出口なお開祖（当時57歳）に、この世を守護されている「国祖・国常立尊（こくそ・くにとこたちのみこと）、が神がかりし、「世の立替え立直し」を宣言されました。ここから大本が開教しました。

お帰り前には、ここで一服…

■ 金龍庵 ■

明治42年の創業以来、100年の伝統を持つお店。名物の「金龍餅」など、素朴な味が人気です。

